

港湾振興便り



2018. 6

第133号

*:**

目 次

*:**

1 ポートエッセイ —北前船、海を渡り大連へ—

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

- 2019年 外国船籍クルーズ船「MSCスプレンドィダ」が酒田港に初寄港決定！
(酒田市地域創生部商工港湾課)
- いわて・大船渡港セミナー2018の開催について
(大船渡市商工港湾部企業立地港湾課)
- 「就航20周年記念 客船『ばしふいっく びいなす』大船渡こども探検隊」の開催について
(大船渡市商工港湾部観光推進室)
- 国際物流ターミナル拡張工事竣工式典が行われました
(北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所)
- 港湾業務艇「のとかぜ」の体験乗船を実施しました
(北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)
- 「第37回横浜開港祭」が開催されました
(関東地方整備局 千葉港湾事務所、京浜港湾事務所、東京湾口航路事務所)
- 三河港神野ふ頭地区耐震強化岸壁供用式典を開催しました
(中部地方整備局 三河港湾事務所)
- 「須磨ビーチフェスタ2018」開催
(近畿地方整備局 港湾空港部 港湾計画課)
- 「石炭サプライチェーンの継続に関する検討」が日本港湾協会賞の企画賞を受賞
(中国地方整備局 宇部港湾・空港整備事務所)
- 「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」平成30年度総会が愛媛県宇和島市にて開催されました
(四国地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室)

●八代港新コンテナターミナル供用式典が開催されました！

(九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所)

●沓形港の港湾協力団体を指定！

(利尻町)

●全国初！苫小牧港で屋根付岸壁の供用式典が行われました

(苫小牧港管理組合)

●「北海道産品の輸出促進に向けた取組」及び「函館港の高校生によるおもてなし活動」が日本港湾協会企画賞を受賞

(北海道開発局 港湾空港部港湾計画課)

●中城湾港新港地区ヘシーボーン・ソジャーン号初寄港

(中城湾港クルーズ促進連絡協議会)

3 お知らせ

◇豊橋みなとフェスティバル2018を開催します

*:

1 ポートエッセイ ―北前船、海を渡り大連へ―

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

*:

江戸時代に最大の物流ルートとして栄えた西廻り航路を支えた北前船に、いま新たな光が当たっている。作家の石川好さんらが提唱した「北前船フォーラム」がブームを生み出し、北前船寄港地・船主集落が日本遺産に認定された。先月末には、中国の大連市で海外では初めての「北前船寄港地フォーラム」が開催され、自民党の二階俊博幹事長らをはじめ千人が参加した。

西廻り航路はご承知の通り、河村瑞賢によって開発された航路で、当初は出羽から日本海側の湊をつないで瀬戸内海に入り、大坂まで達する航路だった。後には北海道の松前・江差から江戸までをつなぐことになる。ここを行き来した船が北前船と呼ばれ、江戸時代の物流の主役を担った。その北前船寄港地フォーラムが今回、海を渡って大連で開催されたことには理由がある。

江戸時代は「鎖国」として国を閉じている建前だったが、実は国際貿易が日常的に行われていた。最近も、「鎖国は誤解を与えるから教科書に載せない」とする方向が一時打ち出されたことは記憶に新しい。事実、江戸中期から後期にかけて新潟湊は「北前船の最大寄港地」として繁華を極めたが、繁盛の裏には国際貿易があった。

当時、日本には4つの国際貿易の窓口があったと言われる。1つはもちろん長崎の出島口で、残りは北から松前口、対馬口、琉球口だったようだ。国際貿易の主役は唐物と呼ばれる今の中国の産物で、運搬の中心的役割を担ったのは琉球口を抑えた薩摩藩だった。新潟湊は松前口と対馬口、琉球口の間基地として活用されていたようで、ありとあらゆる産物が手に入り「日本一物価の安い湊」として知られていた。

それが暗転するのは幕府と薩摩との間が緊迫する江戸末期で、幕府の隠密が2度にわたって薩摩船が禁制品を運んでいたことを新潟湊で摘発する。新潟の廻船問屋などの商人が数十人規模で江戸に送られ、その多くは獄死したという。新潟湊を所領としていた長岡藩は「監督不行き届き」を問われ、新潟湊は幕府がお召し上げして天領となった。

こんな経緯を知る私のような新潟市民にとって、北前船が海を渡ることはごく自然なことなのだが、北前船ゆかりの地の人々にとっても大連でのフォーラム開催は意外性があったようだ。来年の北前船の国際フォーラムは新潟市で開催することが内定した。開港150周年を迎える新潟にふさわしいフォーラムにしていきたい。

本セミナーには、約160名の参加があり、大船渡港を利用した物流に対する関心の高さがうかがえました。



市長プレゼンテーションの様子

●「就航20周年記念 客船『ぱしふいっく びいなす』大船渡こども探検隊」の開催について

(大船渡市 商工港湾部 観光推進室)

大船渡港振興協会は、平成30年5月22日(火)、今年で就航20周年を迎えた客船「ぱしふいっく びいなす」の大船渡港寄港に合わせ、「就航20周年記念 客船『ぱしふいっく びいなす』大船渡こども探検隊」と題し、船内見学会を開催しました。この見学会は、市内の保育園・こども園児を対象に、海事意識を啓発するとともに海事産業の業務や船に関わる仕事への関心を持ってもらい、クルーズ客船が寄港するまち「大船渡」を肌で感じてもらうことを目的としています。

おおふなと特別観光大使である「ぱしふいっく びいなす」の乗務員の案内のもと、園児たちは目を輝かせながら船内を「探検」し、初めて乗るクルーズ客船の大きさに歓声を上げていました。



船内に乗り込む園児たち



「探検」を終えて、「ぱしふいっく びいなす」をバックに記念撮影

●国際物流ターミナル拡張工事竣工式典が行われました

(北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所)

平成30年4月28日(土)、「伏木富山港(新湊地区)国際物流ターミナル拡張工事竣工記念式典」が射水市越の潟町の同ターミナル内にて行われました。

同ターミナルは平成14年4月に供用を開始し、対岸諸国とのコンテナ貨物の取扱量は現在までに約2倍と堅調に増加しています。この度竣工を迎えたコンテナヤード拡張部の供用は、増大するコンテナ貨物の効

率的な輸送を実現し、また現在直轄事業として進めている岸壁75m延伸整備と併せて海上輸送拠点としてのポテンシャルが更に高まるものと考えられます。

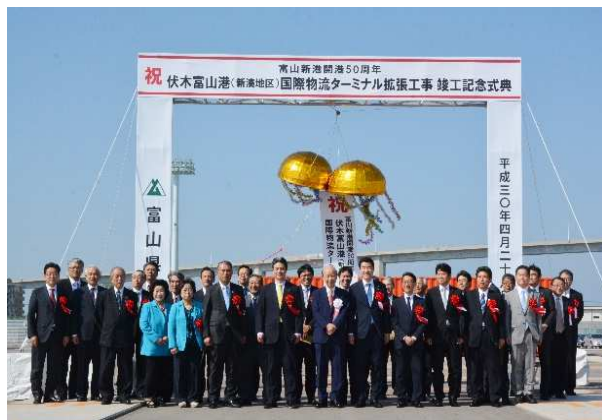
式典では、石井富山県知事が「富山新港は開港50周年の節目を迎え、この間物流の基幹施設として富山県はもちろん北陸全体の経済・産業の発展に貢献してきた。今年度には岸壁延伸工事も完成するとのこと。一層の発展に期待している。」と挨拶されました。続いて野上参議院議員が「岸壁75m延伸は私が国交省副大臣時代に関与した事業、年度内の完成を期待している。環日本海交流はこれから発展していく。東アジア・東南アジア諸国との交流についても盛んになっていくことが予想されることから、迅速に対応できるよう、一致団結して港の発展に向け頑張りたい。」と祝辞を述べられました。佐々木北陸地方整備局次長、山本富山県議会副議長、夏野射水市長の祝辞に続き、テープカットとくす玉開披で祝いました。



石井富山県知事の式辞



野上参議院議員の祝辞



記念撮影



記念荷役の様子

●港湾業務艇「のとかぜ」の体験乗船を実施しました

(北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)

6月2日(土)、輪島港マリンタウンをメイン会場に「輪島市民まつり2018」が開催されました。

輪島市民まつりは、「能登立国1300年能登ふるさと博」のオープニングセレモニーをはじめ、伝統芸能である「御陣乗太鼓」の実演や「奥能登の食まつり」などが開催され、当事務所も、港湾業務艇「のとかぜ」の体験乗船を実施しました。

当日は、天候にも恵まれ波もほとんどなく、船を運航するには絶好の日和となりました。体験乗船は、午前10時から午後4時までの間に計7回の運航を予定し、午前9時に受付を開始しましたがお昼前には予約で満席となりました。

乗船者(計83名)は、事前に注意事項の説明を受けたあと港湾業務艇「のとかぜ」に乗り込み、船内では輪島港や防波堤整備についての話を聞きながら、普段見ることの出来ない海からの眺めを楽しんでいまし

た。

輪島港マリンタウンでは、この日に合わせ「にっぽん丸」が寄港したほか様々なイベントが行われており、市民や観光客で賑わいを見せていました。また、夜には恒例の花火大会が行われ、総数2万413発の花火が打ち上げられました。とりわけラスト五分間は、一気に1万3千発が打ち上げられ、見物者は迫力ある光景を楽しんでいました。



受付の様子



船内の様子



寄港した「にっぽん丸」



恒例の花火大会

●「第37回横浜開港祭」が開催されました

(関東地方整備局 千葉港湾事務所 京浜港湾事務所 東京湾口航路事務所)

6月1日(金)～2日(土)の2日間、「第37回横浜開港祭」が臨港パーク及びみなとみらい21地区ほかで開催されました。

本イベントは、横浜港の開港記念日である6月2日を中心に「開港を祝い、港に感謝しよう」というテーマの下、横浜市が市民への啓発活動として毎年開催しているもので、今年で37回目となります。

関東地方整備局では、港湾及び海洋環境整備に関する広報活動の一環として、千葉港湾事務所、京浜港湾事務所、東京湾口航路事務所の3事務所からスタッフ総勢約20名が参加し、「たかしまⅡ」による横浜港内見学会や会場内の展示ブースに広報パネルや「べいくりん」等の模型を展示しました。

また、2日(土)には、官公庁艇パレードが行われ、関東地方整備局からは「べいくりん」及び「べいさーち」が参加しました。

2日間の開催で「たかしまⅡ」による横浜港内見学会では、約180名の市民が乗船され、展示ブースでは小さなお子様からご高齢の方まで、幅広い世代で昨年を上回る合計500名以上が訪れ大盛況に終わりました。



展示ブースの様子



「たかしまⅡ」



「たかしまⅡ」による横浜港内見学会の様子



官公庁艇パレードに参加した「べいくりん」(左)及び「べいさいち」(右)

●三河港神野ふ頭地区耐震強化岸壁供用式典を開催しました

(中部地方整備局 三河港湾事務所)

6月2日(土)、三河港神野ふ頭7-4号岸壁にて、三河港神野ふ頭地区耐震強化岸壁供用式典を開催しました。当事務所では、三河港神野地区における完成自動車・コンテナ貨物取扱需要の増加及び船舶の大型化への対応、大規模地震発生時における緊急物資輸送拠点としての機能の維持等を目的とし、平成26年度より、水深12mの耐震強化岸壁の整備を進めてきました。

本式典は、事業にご尽力いただいた方々をお招きし、広く供用開始をPRすることを目的に開催しました。当日は、地元選出国會議員をはじめ県・市議会議員、愛知県知事、豊橋市長ら自治体関係者および三河港を利用する事業者等多くの方々にご出席いただきました。式典では、当事務所長の平澤より事業概要報告が行われたほか、関係者および地元小学生によるテープカット、入港第一船目の船長へ記念品の贈呈、つつじが丘ジュニアマーチングバンドによる演奏及び完成自動車の展示が行われ、新たな岸壁の誕生・供用開始を祝いました。



【式辞】塚原 中部地方整備局長



【挨拶】菊地 港湾局長



【挨拶】大村 愛知県知事



【来賓挨拶】根本 衆議院議員



【来賓挨拶】伊藤 衆議院議員



【来賓挨拶】酒井 参議院議員



【来賓挨拶】里見 参議院議員



【来賓挨拶】佐原 三河港振興
会会長/豊橋市長



テープカットの様子



つつじが丘ジュニアマーチングバンドによる演奏の様子

●「須磨ビーチフェスタ2018」開催

(近畿地方整備局港湾空港部港湾計画課)

平成30年5月27日(日)、兵庫県神戸市の須磨海岸にて「須磨ビーチフェスタ2018」が開催されました。

JR須磨駅前のエリアは、平成29年に海浜整備事業が完了し、今まで以上に安心して海を身近に感じてもらうことが可能となりました。これを機に夏の海水浴だけでなく、四季を通じてより多くの市民の方々に海岸を利用してもらうきっかけづくりとして、昨年より「須磨ビーチフェスタ」を開催しています。

当日は、元ビーチバレーボール全日本選手で北京・ロンドンオリンピック出場の朝日健太郎さん(参議院議員)と元ビーチバレーボール全日本選手でシドニー・北京オリンピック出場の佐伯美香さんによるトークショー、U23ビーチバレートーナメント神戸大会、グルメの祭典、潮干狩り及び家族対抗はだし運動会などのイベントが行われ、約1万8千人の市民がビーチイベントを楽しみました。



トークショーの様子

写真中：元ビーチバレーボール全日本選手で北京・ロンドンオリンピック出場の朝日健太郎さん（参議院議員）

写真右：元ビーチバレーボール全日本選手でシドニー・北京オリンピック出場の佐伯美香さん

●「石炭サプライチェーンの継続に関する検討」が日本港湾協会賞の企画賞を受賞

（中国地方整備局 宇部港湾空港・整備事務所）

宇部港湾空港・整備事務所では、平成27年より関係者と連携し「徳山下松港・宇部港における石炭サプライチェーンの継続に関する検討会」を開催してきました。

「石炭サプライチェーンの継続に関する検討」は、国際バルク戦略港湾としてのハード整備及び日頃は競合関係にある複数企業の連携により、平常時には輸送コストの低減、エネルギー供給の安定化・効率化を図りつつ、大規模災害のような非常時においては、石炭物流を途絶えさせることなく安定供給することで、今後の徳山下松港・宇部港における石炭物流の強靱化や港湾の信頼性向上に繋がるものとして、大いに効果が期待されることを評価され、日本港湾協会賞の企画賞を受賞しました。



受賞状況（平成30年5月23日）



平成29年2月3日に東京で開催したセミナーの様子

●「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」平成30年度総会が愛媛県宇和島市にて開催されました

（四国地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室）

「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」（通称：海ネット）の総会が、平成30年6月1日・2日、愛媛県宇和島市で開催され、21首長らが瀬戸内海の魅力向上に向け活発に議論を交わしました。また、「宇和島港」、「宇和島城」、「遊子水荷浦の段畑」、「みなとオアシスうわじま きさいや広場」の視察を行いました。



「第12回瀬戸内海首長サミットの様子」

●八代港新コンテナターミナル供用式典が開催されました！

(九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所)

八代港は九州西部の中央部に位置し、熊本県境を越えた中九州の物流拠点として、経済・産業活動に重要な役割を果たしています。八代港で取り扱うコンテナ貨物は着実に増加しており、平成29年には過去最高となる約2万TEU(速報値)を取扱いました。

さらなるコンテナ取扱量の増大に対応するため、国による岸壁改良工事、および熊本県によるガントリークレーンの新設とコンテナヤードの拡張整備が行われ、今般、八代港の新コンテナターミナルが供用を開始しました。

本式典は、平成30年5月12日に、国土交通省九州地方整備局熊本港湾・空港整備事務所ならびに熊本県の主催により、新コンテナターミナル内で行われ、地元選出国會議員や八代市長、地元議員、地元経済界など多数の方々に出席頂き、盛大に開催されました。

この新たなコンテナターミナルの供用により、八代港の国際物流機能が強化され、地域経済の活性化が期待されます。



●沓形港の港湾協力団体を指定！

(利尻町)

日本最北の国立公園「利尻礼文サロベツ国立公園」があり、「利尻富士」とも呼ばれている日本百名山の利尻山がある利尻島。そんな自然豊かな島の玄関口の1つである沓形港の港湾管理者である利尻町は、港湾法に基づく港湾協力団体として、「利尻町活性化協議会」に指定しました。指定証の手交式が5月18日（金）に行われ、同協議会の高橋代表は「メンバーと協議しながら利尻でしかできないイベントを企画したい」と今後の活動への意欲を述べられました。

「利尻町活性化協議会」は、『みなとオアシスリシリとう・くつがた』の運営者で、クルーズ船の歓迎セレモニーなど利尻町の振興のため、様々なイベントの企画・開催に携わっており、今回の指定により、イベント実施時に港湾管理者との調整がより円滑に進むことで、沓形港の更なる活性化が期待されます。



指定証手交式の様子

左から 利尻町 副町長 佐々木 日出雄
利尻町 町長 保野 洋一
利尻町活性化協議会 代表 高橋 哲也
利尻町活性化協議会 副代表 菅原 郁夫



利尻町活性化協議会の活動

(クルーズ船歓迎セレモニー)

●全国初！苫小牧港で屋根付岸壁の供用式典が行われました。

（苫小牧港管理組合）

平成29年度から苫小牧港西港区汐見地区で整備を進めていた屋根付岸壁の全3棟の計画のうち最初の1棟が今年4月に完成し、5月19日（土）に行われた供用式典には、港湾関係者ら約100名が出席して完成を祝いました。

式典で、岩倉苫小牧市長は「地元の悲願でもあった屋根付岸壁を活用して、政府の目標を達成するために貢献をしていきたい」と述べられました。

この屋根付岸壁は、昨年5月、全国で初めて国土交通省の認定を受けた農水産物輸出促進計画に基づき、道内6港湾で推進している農水産物輸出促進基盤整備事業の一環として国が整備したもので、農水産物の輸出促進を目的とした屋根付岸壁としては、全国の港湾で初めて完成したものです。屋根付岸壁の供用開始により、水揚げされた魚の鮮度維持が可能となり、地元では、衛生面での品質向上により苫小牧産水産物の海外での販路拡大が期待されています。



出席者によるテープカットの様子



主催者式辞（岩倉苫小牧市長）



屋根付岸壁全景

●「北海道産品の輸出促進に向けた取組」及び「函館港の高校生によるおもてなし活動」が日本港湾協会
企画賞を受賞

(北海道開発局 港湾空港部港湾計画課)

公益社団法人日本港湾協会では、港湾及び港湾を取り巻く地域の振興に顕著な貢献をした人物、事業等
に対して毎年表彰しており、「北海道6港湾の連携等による北海道産品の輸出促進に向けた取組」及び「函
館港の高校生による外国クルーズ客船寄港時の『おもてなし』活動」が平成30年度日本港湾協会企画賞を
受賞し、5月23日(水)、函館市で開催された同協会総会において表彰されました。

道内6港湾が連携して農水産物輸出促進計画を策定し、屋根付き岸壁や小口積替円滑化支援施設等の
整備を進めています。また、輸出実績の無い道内企業への支援を目的に設立された一般社団法人北海道
国際流通機構では、海外での物産展の開催や小口混載によるコンテナ輸出等の取組を進めています。こう
したハード・ソフトの両面から北海道産品の輸出促進を図ることで我が国農水産物の輸

出促進や更なる物流効率化への取組に寄与したことが評価されました。

函館港では、函館市の私立高校「遺愛女子高等学校」の英語科生徒が、12年前から外国クルーズ客船
の寄港時に通訳ボランティアとして観光案内対応や書道・茶道などの日本文化体験メニューの提供などの
「おもてなし」活動に取り組んでおり、クルーズ船の函館港への誘致や寄港増加による観光振興に寄与した
ことが評価されました。



北海道6港湾（苫小牧港、石狩湾新港、紋別港、根室港、枝幸港、増毛港）
及び一般社団法人北海道国際流通機構の表彰の様子



遺愛女子高等学校の表彰の様子
(写真左：福島校長)

●中城湾港新港地区ヘシーボーン・ソジャーン号初寄港

(中城湾港クルーズ促進連絡協議会)

平成30年4月29日(日)、中城湾港新港地区ヘシーボーン・クルーズ社のシーボーン・ソジャーン号
(32,346トン)が初寄港しました。

初寄港を歓迎し、シーボーン・ソジャーン船内では歓迎セレモニーが開催され、長寿日本一である沖縄県
北中城村の美寿(ミス)北中城村のお二人からホテル・マネージャーへ花束が贈呈されました。また、新垣
北中城村長らにより記念楯の交換が行われるとともに特産品が贈呈されました。

ターミナルでは中城湾港クルーズ促進連絡協議会による臨時の観光案内所の設置や中部地域の観光地
を巡る観光バスが運行され、欧米からの乗客を中心に約450名の訪日外国人客が中部地域の魅力に触れ
るなど、沖縄での滞在を思う存分、満喫しました。

今年、中城湾港では40回あまりのクルーズ船寄港が予定されており、同協議会では歓迎セレモニーの開
催や臨時の観光案内設置などクルーズ船受入による中部地域の活性化を推進していきます。

